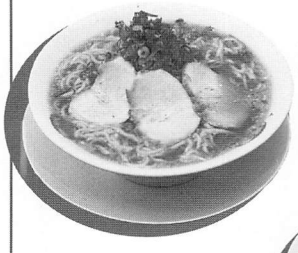
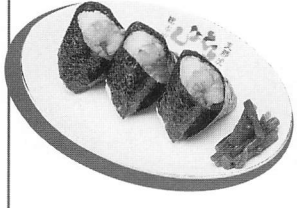
塩ラーメン　550円
多くの女性を虜にする、天然塩使用のとろり白濁スープ。「コク深」ながらもあっさりとしてカラダにやさしい味わいだ。たっぷりのもやし・ネギなどの具もすべてオーガニック



支那虎らーめん　550円
背脂系に一家言ある京女も納得の一杯！
スープはコクとまろみの醤油ベースで、麺との絡みも絶妙。秘伝のタレでじっくり寝かせた、とろけるような豚バラチャーシューも秀逸だ

猛虎らーめん　650円
唐辛子が爽やかに利いた、ホットでまろやかな醤油系。たっぷり盛られた豚そぼろもスパイシーさ抜群だ。カプサイシンによる新陳代謝効果を狙ってか、女性にも絶大な人気！



天むす　400円
名古屋発祥・支那虎ならではのサイドメニュー。甘みのあるエビ天をきゅっと乗せて、女性も嬉しいひと口サイズに。テイクアウトもでき、市内中心部なら電話一本で宅配もOK

鉄鍋餃子　300円
ノン・ニンニクだから仕事やデートの前でも心配ナシ！　特製ダレも余計なクセがなく、さっぱり味わえる。好みで、フレッシュな沖縄産島唐辛子やおろしニンニクをプラスして

ランチタイムサービス（11：00〜14：00）
ラーメンをご注文の方にライスorサラダを無料サービス

らーめん・餃子専門店
総本家
支那虎
支那虎／SHINATORA 烏丸五条店

TEL.075-353-8055
京都市下京区烏丸通五条下ル西側
営業時間　11:00〜25:00（L.O.）
年中無休

FC加盟店 募集中！　担当／伊藤

木工家
戸田 直美
T o d a N a o m i

KYOTIAN I.D.
キョーティアンアイディ
The 102nd person

【プロフィール】'76年兵庫県生まれ、京都市立芸術大学大学院美術研究科漆工専攻終了。漆芸家具工房を経て独立、アトリエ「T-room」の一員として制作活動をスタートする。これまでの主な作品は、店舗や個人宅の椅子やテーブルなどの木工ファニチャー。とは言え、製作の範囲はファニチャー限定ではなく、陶器と組み合わせる装飾品などにも拡大中。今春より某芸大の環境デザイン科にて、環境デザインの一部としての椅子づくりをテーマに講義を受け持つ。

木と向き合い、人と出会い「出会い」誘発「プロダクト」

拭き漆の技法で仕上げられた「奇天屋（京都市下京区綾小路赤倉西入ル/075・365・9108）」の椅子。ここの場合も、「元々はお客さんとしてごはんを食べに来ていて…」仕事へと結びついたという、仕事を呼び込む運を持つ

京都市東山青少年活動センターで開催の「小さな木工教室」のための教材。参加者が自分で作れて自分で使えるものとして選ばれたスプーンという題材。物づくりの喜びを感じる受講者の様子も嬉しいという。今後も定期的に開催予定

アトリエは東福寺、建築家・アーティスト・家具作家の6組が共同で運営する「T-room」の中にある。基本的には個別の活動だが、ものによっては一緒に活動することも。人の輪が広がってゆくのも魅力的だと言う

Information
戸田直美
http://www.table-b.net/8guest4_6poti.htm

「木野」「奇天屋」「和知」「Ratna Cafe」…。いずれも町中のこれらの店々に並ぶのは、木を素材にしたシンプルこの上ないが記憶に残る椅子やテーブル。それらの作者が戸田直美さんである。大学院を卒業して丸2年でこの作品数、作品センスに加えて、マーケティング能力にもさぞや長けているに違いない…。しかし「こんな風に仕事をするとは思ってなかったんです」。こんな言葉が第一声だった。

実家はノミの柄の先に付けられる金具・カツラの製造を営んでいた。それをいくつも組み合わせ遊んだのが子供の頃。小学生の時に実家が建て替えられ、何十人もの職人が携わる様を見ては漠然と憧れつつ、材木の端を拾っては遊び道具にしていた。なんとなく感じる物づくりへの憧れは、そうして築かれた。やがて漆工を学ぶ道を選ぶ。当初は漆工をやりつつも、「家を建てる」に通じるような大きな作品を作っていたというが、やがて「自分の思いを貫くだけの作品じゃなくて、誰かのためのものがいい」と思い始めた。それは、喫茶店でありバーでもある一軒の店でアルバイトを始めたことがきっかけだ。当然、人も集まれば、会話も飛び交う。そんな中に存在する家具が、ひどく魅力的に思えたからだ。

大学院2回生になり、幸運は突然舞い込んできた。バイト先で話した人から新しい店の椅子を作らないか、と声がかかったのだ。椅子だけが目立って印象に残るものは嫌だから、と作りあげた作品は自他共に満足のゆくものになった。それが仕事として請け負った最初の作品、「木野」の椅子だ。そこで思う、「店舗の椅子を作るということは、自分も見て使いに行けるし、人にも育ててもらえ、そして作品がわいわいとした人の輪の中にとけ込める」と。

何よりも人と出会い、話すのが好きだという戸田さん。店舗に置くための椅子を作るということは、椅子にとっても好環境に思えたし、自分にとってもまたそうだった。発注主との直接のやりとり、材木商などの業者との交渉、完成した作品を使う中での更なるオーダーや改良点の声。まったく予想しなかったことが、仕事として成り立ち、作品を中心に自分を広げることができた。もちろん「運がいい」と本人が言う前提には、基礎体力としての技術があるのだが。

こうしてベースは整ってきた。木工ワークショップの企画・指導も順調だ、大学の講師として椅子づくりを教えることもスタートする。更なる出会いと経験を経て、1年後2年後と変化し続けるであろう作品達に出会えるのは、どんな場所だろう。期待を気負わず受け止める目の輝きこそ、彼女の最大の武器に思えてならないのだ。